

## 『世界俯瞰の匠』育成プログラム

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：山形大学（代表者：結城 章夫）

連携自治体：山形県

### 課題の概要

グローバルマーケティングから品質管理、リスクマネジメントまで総合的に世界市場を俯瞰できる人材の育成を目指して、地域中小企業のための「世界戦略 MOT」教育プログラムを実施する。これにより、情報家電分野のものづくりを支える地方圏の中小企業が、自らが主体的にグローバル戦略を展開できるようにすることで、地域産業の高付加価値化を図る。

カリキュラムは実践的な内容を中心に、海外への進出企業と連携した海外インターンシップを組み合わせる。人材育成の到達レベルは、実務のなかで海外展開の中心となって戦略構築と事業遂行が行える能力の獲得を目標とする。開設する修士課程のコースの入学定員は6名とし、事業開始3年目（平成 22 年度末）修士修了者6名、事業開始5年目修了者18名（うち米沢地域6名程度）を予定している。

#### (1) 総合評価（所期の計画を超えた取組が行われている）

本プログラムはグローバルマーケティングから品質管理、リスクマネジメントまで総合的に世界市場を俯瞰できる人材『世界俯瞰の匠』を養成する正規の修士課程プログラムとして、地域産業の将来を担う人材にとって重要なプログラムとなっている。米沢若手経営者塾の実施、サテライトキャンパスの整備など地域産業に貢献するという姿勢が明確で、地方大学のモデルとなる取組であり、所期の計画を超えた取組が行われていると高く評価できる。

<総合評価：S>

#### (2) 個別評価

##### ①進捗状況

ミッションステートメントの達成に向けて、地域中小企業からの社会人以外の人材も含まれるものの、総数としては所期の養成人数目標を上回る成果を達成している。採択時のコメントに対応してカリキュラムの工夫や国際ビジネス経験のある講師の確保を図りながら、米沢街中サテライトキャンパスを設置し、所期の計画を補強する新たな仕組みを設定するなど、社会情勢の変化に機敏に対応している点も評価できる。

##### ②人材養成手法の妥当性

米沢地域に蓄積されてきた産業の人材育成経験と地域企業との協力・連携関係を基盤に、大学の当該地域におけるこれまでの役割を活かすという順当な人材養成手法が実施されており、評価できる。また、手法の中に海外視察やインターンシップを盛り込んでいることは、グローバルな視点を身につける上で有効である。これら実践的な取組においては実習先の選定や事前の準備などが成否を左右するが、それらのプロセスにおいて効果が上がるように対応していることも評価できる。

##### ③実施体制・自治体等との連携

山形大学理工学研究科を中心に関連研究科、学部、国際的に事業展開している大手企業等から

多彩な講師陣を確保するとともに、産業界と行政からの意見を適切に取り入れるなど関係機関との緊密な協力体制の下で実施機関を挙げてプログラムが運用されていることは高く評価できる。また、山形県から派遣された職員が地域産業界への広報やセミナーの企画運営を行うなど、自治体の支援体制も評価できる。

④人材養成ユニットの有効性

「米沢市電子機器・機械工業振興協議会」や「米沢ビジネスネットワークオフィス」と連携するなど、産業団体との良好な協力関係は高く評価できる。併せて、国際事業化研究センターや街中サテライトキャンパスなどの設置により当該ユニットの成果を相乗的に高めていることも高く評価できる。現時点まで修了者は出ていないものの、修了者が所属する企業において本課題の成果が得られつつある報告もあり、当該ユニットの有効性を示すものと判断する。

⑤継続性・発展性の見通し

大学院正規コースとしての継続と米沢街中サテライトキャンパスを通してのフォロー体制を推進するなど継続が期待できる。地域再生計画で掲げている「東アジア圏」に対象地域を広げる努力、またプログラムが本来対象とする中小企業従業者をより多く受け入れるという課題など、景気変動の影響を地域経済が大きく受けている中で、難しい問題を克服しながら継続性・発展性を確保して行くことに期待する。

(3) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
S	a	a	s	s	a